

# 金融機関が求める強固な セキュリティレベルを実現 新たな選択肢となる Menlo Security



「お客様・地域社会と共に発展しベストパートナーとして信頼される銀行」を目指す株式会社静岡中央銀行では、金融庁からの通達に沿って業務におけるインターネット活用を安全に実現するためのインターネット分離環境を検討する過程で、利便性を低下させないセキュアなブラウザ利用の方法として、Menlo Securityが提供するブラウザからの脅威を無害化するアイソレーションを導入している。その経緯について、同行 取締役 システム部長 渡邊 芳和 氏および同行 システム部 システム企画グループ マネージャー 佐藤 功氏にお話を伺った。

## 金融庁から求められていた インターネット分離の環境づくりを検討

1926年に伊豆無尽株式会社として創業して以来98年にわたって黒字決算を続けるなど、経営理念である「堅実で健全な経営」を名実ともに実現している株式会社静岡中央銀行。「お客様中心主義」を掲げ、地域経済活性化への貢献を通じて地域と共に成長し、地域金融機関としての企業価値を高めることで顧客および地域社会のベストパートナーとして信頼を得ることを目指している。

現在は2022年4月より始まった中期経営計画『深化』シリーズの第2ステージにあり、“お客様中心主義の深化”を基本方針として、ビジネスモデルである「訪問頻度管理」をより深掘りして磨きを掛けるなど、持続可能な成長に向けた施策に取り組んでいる。そのひとつとして取り組む法人営業体制強化については、浜松支店をはじめとした遠州エリア4店舗の集約統合を進めて顧客の多様化・高度化するニーズへの柔軟な対応が可能な環境整備を進めており、業務を軽量化した店舗では個人顧客の業務に特化することでサービスの維持・向上に努めている。

同行も含めた金融機関では、以前から金融庁よりセキュアな環境づくりとして、通常の勘定系システムを含めた業務利用環境とインターネット接続の環境を分離して外部脅威への強固な対策が可能な環境整備が求められてきた。「以前は特定IPを持つPCのみが閲覧でき、通信上でもフィルターをかけてインターネット接続できる環境は用意していました。ただ、今後クラウドも含めたインターネット利用が増えることも予想され、多くのメンバーが安全にインターネットにアクセスできる環境づくりが必要になっていたのです」と渡邊氏は当時を振り返る。

## 一長一短ある分割ソリューション、 新たな方式としての Webアイソレーションに注目

多くの金融機関が直面する共通の課題、それはインターネット分離によるセキュリティ強化と業務効率の維持という両立の難しさだった。佐藤氏は当時を振り返り、「他行と同様に分離環境の構築は急務でしたが、物理分離と論理分離のどちらにも懸念がありました」と語る。

同行では、基幹系システムに地域金融機関向けの共同利用型サービス「NEXTBASE」を活用しており、そのユーザー間で行われる情報交換は、他行の先進的な取り組みを知る貴重な機会となっていた。そこで得られた情報から、物理的な分離では端末の使い分けによる業務効率の低下、管理コストや設置スペースの増大が避けられないことが明らかになった。佐藤氏は「物理的に環境を分けると、使い勝手が悪く、現場から不満の声が上がると聞いていました。USBメモリでのファイル授受はセキュリティリスクも高く、業務効率の面からも現実的ではありませんでした」と説明する。

一方、仮想ブラウザなどの技術を用いた論理分離もまた、課題を抱えていた。環境構築に高額なコストがかかるだけでなく、結局のところファイルの授受など個別運用が必要となる場面が多く、



## 静岡中央銀行

社名：株式会社静岡中央銀行

業界：金融業

所在地：静岡県沼津市大手町4丁目76番地

URL：<https://www.shizuokachuo-bank.co.jp/>

静岡を中心に、神奈川や東京に店舗を展開する第二地方銀行として「お客様中心主義」を掲げ、「お客様・地域社会と共に発展しベストパートナーとして信頼される銀行」を目指した事業展開を推進。現在はビジネスモデルである「訪問頻度管理」をより深掘りして磨きを掛ける「深化II」を掲げ、持続的成長に向けた挑戦を続けている。

## ソリューション

- ・ Webアイソレーション

## 課題

- ・ 金融庁から求められていたインターネット分離の環境づくりが急務
- ・ 今までの分離ソリューションは一長一短があり、決めに欠ける
- ・ 管理負荷が軽減でき、現場にも展開しやすい環境を整備したい

## 効果

- ・ 使い勝手とセキュアな環境を両立した業務環境を整備
- ・ 現場に意識させることなく、安全なインターネットアクセスを実現
- ・ 安定稼働で業務負荷がほぼかからない



株式会社静岡中央銀行  
取締役  
システム部長  
渡邊 芳和 氏



株式会社静岡中央銀行  
システム部  
システム企画グループ  
マネージャー  
佐藤 功 氏

既存の業務フローを大きく変更せざるを得ない可能性があった。「我々のようなシステム部門は対応できますが、現場の利用環境を複雑化することは避けたいと考えていました。どちらの方法も、我々にとって最適な解決策ではないと感じていたのです」と佐藤氏は当時の苦悩を明かす。

そんな中、同行が目に向けたのが、大手システムインテグレーターから紹介されたWebアイソレーション技術を提供するMenlo Securityだった。Menlo SecurityのWebアイソレーションは、通信の宛先を変えるだけでセキュアなインターネット閲覧を可能にするだけでなく、既存の環境を大きく変更せずに導入できるというメリットがあった。佐藤氏は「Webアイソレーションであれば、安全性を確保しつつ、物理分離のような使いにくさや、他の方法で実現する論理分離の複雑さを現場に強いることなく導入できると考えました」と語る。

Menlo Securityからの直接的な情報提供と手厚いサポートも後押しとなり、静岡中央銀行は導入コストを抑制し、生産性を犠牲にしないWebアイソレーションの採用を決断することになる。

### 利便性維持と セキュリティ強化を兼ね備えた Menlo Security

現在は、営業担当者や調査部署などのメンバーを中心とした数百名ほどが、クラウド上に展開するMenlo Secure Cloud Browserを経由してインターネット接続を行っている。Menlo Securityを導入したことで、使い勝手とセキュリティをトレードオフすることなく快適な業務環境の整備に成功している。

すでに導入して4年ほど経過しているが、大きなトラブルもなく外部脅威をシャットアウトしており、Menlo Securityの効果を実感しているという。「情報をダウンロードするときのフローは多少違いがありますが、多くの現場では特別に意識することなく、安全な形でインターネット接続が可能になっています。安定して利用できており、本当に助かっています」と渡邊氏は評価する。

運用面では、日々の業務負荷もほとんど発生していない。「稀に証明書が必要なWebサイトやグローバルIPでの接続が必須のWebサイトがあり、安全かどうかを判断したうえで除外設定するという作業はありますが、頻度も少ないため何の負担にもなっていません」と佐藤氏。実際の管理画面は経営層に報告する月1回ほどのアクセスが中心で、稀にインターネットが遅延した場合に状況把握のためにモニタリングする程度だという。なお、導入当初は構築パートナーの力を借りて設定作業を行ったが、多少の知識があれば自社の環境に合わせて設定できるレベルで使い勝手も高いと好評だ。

長年安定してセキュアな環境が維持できていることで、NEXTBASEを利用する他の金融機関からMenlo Securityについて相談が寄せられ、実際に紹介した経験もあるという。「NEXTBASEに加盟する金融機関も、より良い分離手法がないか模索しているようです。運用負担の少ないMenlo Securityへの期待はあるのではないのでしょうか」と佐藤氏は語る。



どの企業もホームページを持っている時代で、さまざまな情報を得るのにインターネット接続は欠かせません。Menlo Securityを導入してすでに4年経過していますが、安定していて、問題が起きるようなこともない。本当に助かっています”

株式会社静岡中央銀行  
取締役  
システム部長  
渡邊 芳和 氏

Menlo Securityのサポートについては、ネットワーク負荷が高くなった際に構築ベンダーとともにMenlo Securityが現地に入り、課題解決に尽力したことも。「結果としてはルーターの問題が起因していましたが、我々が抱える不安を解消いただけるなど、手厚く支援いただけて感謝しています」と渡邊氏は評価する。

### 導入規模の拡大とともに、 ゼロトラスト環境整備への拡張に期待

現在は数百名ほどがMenlo Securityを経由してインターネットアクセスを行っているが、業務基盤のクラウド活用など今後もインターネット接続が増えることも想定されており、状況に応じて拡張していく計画だ。なお、メール環境はオンプレミス環境にあるが、外部に出る際にはクラウド上でチェックをかけてセキュアな環境を維持している。いずれメール環境の変化があれば、Menlo Securityのメールアイソレーション活用も考えられるという。

また、将来的にはゼロトラストを前提とした考え方を取り入れていく可能性も示唆する。「金融庁のガイドラインやセルフアセスメントなどでは、すでにゼロトラストに言及されており、当行でもエンドポイント対策としてのEDRは検討していくつもりです。金融機関としてどこまでクラウドサービスを利用するかは未知数ですが、何のサービスをどんな目的で利用するのかを把握・管理して、サービス事業者との定期的なコミュニケーションを図っていくことが何よりも重要だと考えています」と佐藤氏。いずれクラウド利用が進めば、ゼロトラストも含めた環境整備が可能なMenlo Securityの拡張も十分考えられると今後について語っていただいた。